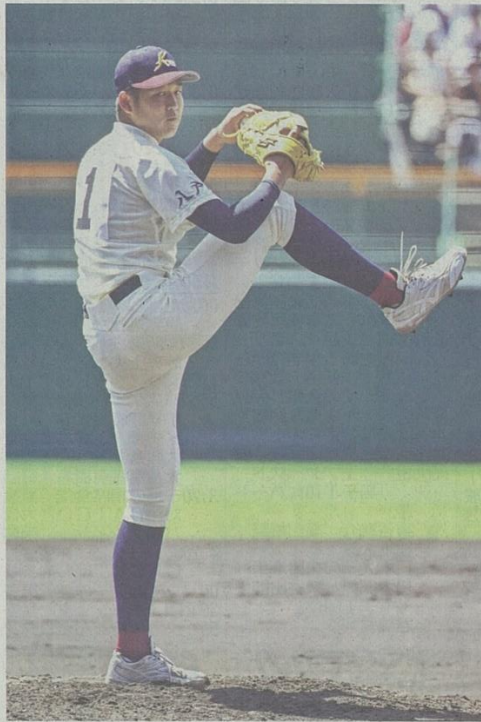


## かつての光星エース 父、兄の思い胸に

# 洗平(2年)力投聖地に足跡



背番号「1」を着け、チームの躍進に貢献した洗平比呂投手  
—19日、阪神甲子園球場



兄へ、兄から弟へ。2人の思いを胸に秘め、甲子園のマウンドで力を出し切った。

(千葉洋也、福田駿)

高校時代は3年連続で青森大会決勝に進みながら、甲子園には縁がなく「悲運のエース」と呼ばれた竜也さん。大学卒業後はプロ入りを断るも、2007年シニアに現役を退いた。息子

1失点と力投した。自分も2回もチャンスをも

## 成長誓い「帰ってくる」

らった。思いをしつかりと込めて投げられた

毎回のように走者を背負いながらも要所を締め、青森県勢では1968年の三沢・太田幸司さん以来、55年ぶり2人目の2年生完封。引き継いだエースナンバーを背負い、快拳を成し遂げた。

3回戦でも好救援を見せた洗平投手は、19日の準々決勝で先発したが、3失点して無念の五回降板。準優勝した17年以來の4強にはあと一歩届かなかった。

それでも、次男の姿をスタンドから見守った竜也さんは「粘り強く投げていた。四球は出してはいたが、以前よりも精神的に強くなって、崩れなくなった」と誇らしげ。「歩人に続いて、比呂も光星の背番号1を背負ってくれたのはうれしい」とも話した。

洗平投手は「チームを勝たせられなかった。そこができるようになって(甲子園に)帰ってきた」。心身共に一回りも二回りも大きくなって聖地へ戻ってくることを誓った。